科目名	数学Ⅰ			単位数	3	履修区分	必履修
対象の部	午前部	午後部		使用教科書 教材	改訂版　新　高校の数学Ⅰ （数研出版）		
履修の条件							
先生からのアドバイス	午前部および午後部の生徒は数学Ⅰ(3単位)を1年次で履修します。高校生としての数学の基本的な内容を学ぶ科目です。必履修科目なので、2年次で開講される数学Ⅰ2と併せて履修が認定されないと卒業できません。						

評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学ぶ態度
観点の内容		数や式を多面的に捉え変形する力、図形の性質や計量を論理的に考察・表現する力、事象を表現し表・式・グラフを関連付けて考察する力、適切な手法を選択・分析し、問題解決や過程・結果を批判的に考察・判断する力を養う。 A評価：定期考査の正答率が80%以上。評価規準の全項目について、身に付けている。 B評価：定期考査の正答率30%以上80%未満。評価規準の一部項目について、身に付けている。 C評価：Bに到達していない。	数や式を多面的に捉え適切に変形する力、図形の性質や計量を論理的に考察・表現する力、事象を的確に表現し表・式・グラフを関連付けて考察する力、適切な手法を選択して分析し、問題解決や過程・結果を批判的に考察・判断する力を養う。 A評価：定期考査の正答率が80%以上。評価規準の全項目について、身に付けている。 B評価：定期考査の正答率30%以上80%未満。評価規準の一部項目について、身に付けている。 C評価：Bに到達していない。	数学のよさを認識し活用しようとする態度、粘り強く考え数学的根拠に基づいて判断する態度、問題解決の過程を振り返り考察を深め、評価・改善する態度や創造性の基礎を養う。 A評価：授業に積極的に参加し、提出物の取り組み状況も良好である。 B評価：授業に参加し、取り組んでいる様子がみられる。 C評価：Bに到達していない。
評価方法	学習状況の観察	△	△	△
	ノート・プリント	ー	ー	◎
	発表・グループ学習	○	◎	○
	単元テスト・定期考査	◎	○	ー

学期	月	学習内容（単元名）	評価規準		
前期	4	計算の基本 単項式と多項式 多項式の加法と減法	・単元ごとの定義、定理、公式を理解することに努め、必要に応じて利用することができる。	・計算や証明問題の過程を省略せずに論述することに努める。また、発表やグループ学習では他者が理解しやすいように説明や補足ができる。	・与えられた課題や、自主的な学習に取り組むことができる。また、発表やグループ学習に積極的に参加することができる。
	5	多項式の乗法 展開の公式 因数分解			
		定期考査　①			
	6	根号を含む式の計算 実数 1次方程式			
	7	定期考査　②			
		不等式			
	9	関数 1次関数のグラフ 2次関数のグラフ(1)			
後期	10	2次関数のグラフ(2) 2次関数の最大値、最小値 グラフと2次方程式	・単元ごとの定義、定理、公式を理解することに努め、必要に応じて利用することができる。	・計算や証明問題の過程を省略せずに論述することに努める。また、発表やグループ学習では他者が理解しやすいように説明や補足ができる。	・与えられた課題や、自主的な学習に取り組むことができる。また、発表やグループ学習に積極的に参加することができる。
		定期考査　③			
	11	直角三角形 三角比 三角比の利用			
	12	三角比の相互関係 正弦定理			
	1	余弦定理 三角形の面積			
		定期考査　④			
	2	命題 命題と集合 必要条件と十分条件			
	3	データの整理 データの代表値 データの散らばり			

科　目　名	数学Ⅰ１			単位数	２	履修区分	必　履　修
対　象　の　部			夜　間　部	使用教科書 教　材		改訂版　新　高校の数学Ⅰ （数研出版）	
履　修　の　条　件							
先　生　か　ら　の ア　ド　バ　イ　ス	夜間部の生徒は数学Ⅰ(４単位)を１年次と２年次にわけて２単位ずつ履修します。高校生としての数学の基本的な内容を学ぶ科目です。数学Ⅰ１は１年次で開講されます。必履修科目なので、２年次で開講される数学Ⅰ２と併せて履修が認定されないと卒業できません。						

評　価　の　観　点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学ぶ態度
観　点　の　内　容	数や式を多面的に捉え変形する力、図形の性質や計量を論理的に考察・表現する力、事象を表現し表・式・グラフを関連付けて考察する力、適切な手法を選択・分析し、問題解決や過程・結果を批判的に考察・判断する力を養う。 A評価：定期考査の正答率が80%以上。評価規準の全項目について、身に付けている。 B評価：定期考査の正答率30%以上80%未満。評価規準の一部項目について、身に付けている。 C評価：Bに到達していない。	数や式を多面的に捉え適切に変形する力、図形の性質や計量を論理的に考察・表現する力、事象を的確に表現し表・式・グラフを関連付けて考察する力、適切な手法を選択して分析し、問題解決や過程・結果を批判的に考察・判断する力を養う。 A評価：定期考査の正答率が80%以上。評価規準の全項目について、身に付けている。 B評価：定期考査の正答率30%以上80%未満。評価規準の一部項目について、身に付けている。 C評価：Bに到達していない。	数学のよさを認識し活用しようとする態度、粘り強く考え数学的根拠に基づいて判断する態度、問題解決の過程を振り返り考察を深め、評価・改善する態度や創造性の基礎を養う。 A評価：授業に積極的に参加し、提出物の取り組み状況も良好である。 B評価：授業に参加し、取り組んでいる様子がみられる。 C評価：Bに到達していない。
評価方法　学習状況の観察	△	△	△
評価方法　ノート・プリント	ー	ー	◎
評価方法　発表・グループ学習	○	◎	○
評価方法　単元テスト・定期考査	◎	○	ー

学期	月	学習内容（単元名）	評価規準		
前期	4	計算の基本	・単元ごとの定義、定理、公式を理解することに努め、必要に応じて利用することができる。	・計算や証明問題の過程を省略せずに論述することに努める。また、発表やグループ学習では他者が理解しやすいように説明や補足ができる。	・与えられた課題や、自主的な学習に取り組むことができる。また、発表やグループ学習に積極的に参加することができる。
	5	単項式と多項式 多項式の加法と減法 定期考査　①			
	6	多項式の乗法 展開			
	7	定期考査　②			
		因数分解			
	9	根号を含む式の計算			
後期	10	実数 １次方程式 不等式	・単元ごとの定義、定理、公式を理解することに努め、必要に応じて利用することができる。	・計算や証明問題の過程を省略せずに論述することに努める。また、発表やグループ学習では他者が理解しやすいように説明や補足ができる。	・与えられた課題や、自主的な学習に取り組むことができる。また、発表やグループ学習に積極的に参加することができる。
		定期考査　③			
	11	不等式の解			
	12	２次関数			
	1	１次関数のグラフ ２次関数のグラフ 定期考査　④			
	2	２次関数の最大最小			
	3				

科　目　名	数学Ⅰ2			単位数	2	履修区分	必　履　修
対　象　の　部			夜間部	使用教科書 教　材	改訂版　新　高校の数学Ⅰ （数研出版）		
履　修　の　条　件							
先生からの アドバイス	夜間部の生徒は数学Ⅰ(４単位)を１年次と２年次にわけて２単位ずつ履修します。高校生としての数学の基本的な内容を学ぶ科目です。数学Ⅰ２は２年次で開講されます。必履修科目なので、１年次で開講される数学Ⅰ１と併せて履修が認定されないと卒業できません。						

評　価　の　観　点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学ぶ態度
観　点　の　内　容		数や式を多面的に捉え変形する力、図形の性質や計量を論理的に考察・表現する力、事象を表現し表・式・グラフを関連付けて考察する力、適切な手法を選択・分析し、問題解決や過程・結果を批判的に考察・判断するカを養う。 A評価：定期考査の正答率が80%以上。評価規準の全項目について、身に付けている。 B評価：定期考査の正答率30%以上80%未満。評価規準の一部項目について、身に付けている。 C評価：Bに到達していない。	数や式を多面的に捉え適切に変形する力、図形の性質や計量を論理的に考察・表現する力、事象を的確に表現し表・式・グラフを関連付けて考察する力、適切な手法を選択して分析し、問題解決や過程・結果を批判的に考察・判断するカを養う。 A評価：定期考査の正答率が80%以上。評価規準の全項目について、身に付けている。 B評価：定期考査の正答率30%以上80%未満。評価規準の一部項目について、身に付けている。 C評価：Bに到達していない。	数学のよさを認識し活用しようとする態度、粘り強く考え数学的根拠に基づいて判断する態度、問題解決の過程を振り返り考察を深め、評価・改善する態度や創造性の基礎を養う。 A評価：授業に積極的に参加し、提出物の取り組み状況も良好である。 B評価：授業に参加し、取り組んでいる様子がみられる。 C評価：Bに到達していない。
評価方法	学習状況の観察	△	△	△
	ノート・プリント	ー	ー	◎
	発表・グループ学習	○	◎	○
	単元テスト・定期考査	◎	○	ー

学期	月	学習内容（単元名）	評価規準		
前期	4	2次関数のグラフと2次方程式	・単元ごとの定義、定理、公式を理解することに努め、必要に応じて利用することができる。	・計算や証明問題の過程を省略せずに論述することに努める。また、発表やグループ学習では他者が理解しやすいように説明や補足ができる。	・与えられた課題や、自主的な学習に取り組むことができる。また、発表やグループ学習に積極的に参加することができる。
	5	2次関数のグラフと2次方程式 定期考査　①			
	6	2次不等式			
	7	定期考査　② 2次不等式			
	9	2次不等式			
後期	10	三角形への応用 定期考査　③	・単元ごとの定義、定理、公式を理解することに努め、必要に応じて利用することができる。	・計算や証明問題の過程を省略せずに論述することに努める。また、発表やグループ学習では他者が理解しやすいように説明や補足ができる。	・与えられた課題や、自主的な学習に取り組むことができる。また、発表やグループ学習に積極的に参加することができる。
	11	三角形への応用			
	12	三角形への応用			
	1	データの分析 定期考査　④			
	2	データの分析			
	3	データの分析			

科目名	数学Ⅱ			単位数	4	履修区分	自由選択
対象の部	午前部	午後部		使用教科書 教材	改訂版　新　高校の数学Ⅱ （数研出版）		
履修の条件	数学Ⅰの履修が認定された後に履修すること						
先生からのアドバイス	数学Ⅰよりも発展的な内容を学習します。数学Ⅰの知識を必要とします。理系の大学や専門学校への進学を目指す生徒は、履修すると良いでしょう。また、理系の四年制大学に進学を希望する生徒は、２年次での履修をお勧めします。						

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学ぶ態度
観点の内容	いろいろな式、図形と方程式、指数・対数関数、三角関数及び微分・積分の基本的な概念や原理・法則を体系的に理解し、事象を数学化、数学的に解釈・表現・処理する技能を身に付けるようにする。 A評価：定期考査の正答率が80%以上。評価規準の全項目について、身に付けている。 B評価：定期考査の正答率30%以上80%未満。評価規準の一部項目について、身に付けている。 C評価：Bに到達していない。	等式や不等式の成立を論理的に考察する力、方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現し、その性質を考察する力、事象を的確に表現し数学的に考察する力、事象を統合的・発展的に考察する力を養う。 A評価：定期考査の正答率が80%以上。評価規準の全項目について、身に付けている。 B評価：定期考査の正答率30%以上80%未満。評価規準の一部項目について、身に付けている。 C評価：Bに到達していない。	数学のよさを認識し活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返り考察を深め、評価・改善しようとする態度や創造性の基礎を養う。 A評価：授業に積極的に参加し、提出物の取り組み状況も良好である。 B評価：授業に参加し、取り組んでいる様子がみられる。 C評価：Bに到達していない。
評価方法　学習状況の観察	△	△	△
評価方法　ノート・プリント	ー	ー	◎
評価方法　発表・グループ学習	○	◎	○
評価方法　単元テスト・定期考査	◎	○	ー

学期	月	学習内容（単元名）	評価規準		
前期	4	第1章　複素数と方程式 式の展開と因数分解 二項定理	・単元ごとの定義、定理、公式を理解することに努め、必要に応じて利用することができる。	・計算や証明問題の過程を省略せずに論述することに努める。また、発表やグループ学習では他者が理解しやすいように説明や補足ができる。	・与えられた課題や、自主的な学習に取り組むことができる。また、発表やグループ学習に積極的に参加することができる。
	5	分数式の計算 複素数 定期考査　①			
	6	2次方程式の解と判別式 多項式のわり算 因数定理 定期考査　②			
	7	高次方程式			
	9	第2章　図形と方程式 点と直線 円			
後期	10	指数の拡張 対数関数 定期考査　③	・単元ごとの定義、定理、公式を理解することに努め、必要に応じて利用することができる。	・計算や証明問題の過程を省略せずに論述することに努める。また、発表やグループ学習では他者が理解しやすいように説明や補足ができる。	・与えられた課題や、自主的な学習に取り組むことができる。また、発表やグループ学習に積極的に参加することができる。
	11	第4章　三角関数 角の拡張			
	12	三角関数			
	1	第5章　微分・積分 微分の考え 定期考査　④			
	2	積分の考え			
	3				

科目名	数学Ⅲ			単位数	4	履修区分	自由選択
対象の部	午前部			使用教科書 教材	最新　数学Ⅲ （数研出版）		
履修の条件	数学Ⅰ、Ⅱの履修が認定された後に履修すること						
先生からのアドバイス	数学Ⅰ、Ⅱ、A、Bの知識を必要とするので、あらかじめ数学Ⅰ、Ⅱ、A、Bを履修しておきましょう。また、数学Cを同時に履修することが望ましいです。将来、数学が必要な専門分野に進もうとする生徒や、数学に強い興味・関心をもって更に深く学習しようとする生徒向けの科目です。						

評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学ぶ態度
観点の内容		極限、微分法及び積分法の基本的な概念や原理・法則を体系的に理解し、事象を数学化し、数学的に解釈・表現・処理する技能を身に付けるようにする。 A評価：定期考査の正答率が80%以上。評価規準の全項目について、身に付けている。 B評価：定期考査の正答率30%以上80%未満。評価規準の一部項目について、身に付けている。 C評価：Bに到達していない。	数列や関数の値の変化に着目して極限を考察する力、関数関係を捉え事象を的確に表現し、問題解決の過程や結果を振り返り統合的・発展的に考察する力を養う。 A評価：定期考査の正答率が80%以上。評価規準の全項目について、身に付けている。 B評価：定期考査の正答率30%以上80%未満。評価規準の一部項目について、身に付けている。 C評価：Bに到達していない。	数学のよさを認識し活用する態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断する態度、問題解決の過程を振り返り考察を深め、評価・改善する態度や創造性の基礎を養う。 A評価：授業に積極的に参加し、提出物の取り組み状況も良好である。 B評価：授業に参加し、取り組んでいる様子がみられる。 C評価：Bに到達していない。
評価方法	学習状況の観察	△	△	△
	ノート・プリント	ー	ー	◎
	発表・グループ学習	○	◎	○
	単元テスト・定期考査	◎	○	ー

学期	月	学習内容（単元名）	評価規準		
前期	4	第1章　関数	・単元ごとの定義、定理、公式を理解することに努め、必要に応じて利用することができる。	・計算や証明問題の過程を省略せずに論述することに努める。また、発表やグループ学習では他者が理解しやすいように説明や補足ができる。	・与えられた課題や、自主的な学習に取り組むことができる。また、発表やグループ学習に積極的に参加することができる。
	5	第2章　極限 定期考査　①			
	6	第2章　極限			
	7	定期考査　②			
	9	第3章 微分法とその応用			
後期	10	第3章 微分法とその応用 定期考査　③	・単元ごとの定義、定理、公式を理解することに努め、必要に応じて利用することができる。	・計算や証明問題の過程を省略せずに論述することに努める。また、発表やグループ学習では他者が理解しやすいように説明や補足ができる。	・与えられた課題や、自主的な学習に取り組むことができる。また、発表やグループ学習に積極的に参加することができる。
	11				
	12	第4章 積分法とその応用			
	1	定期考査　④			
	2	第4章 積分法とその応用			
	3				

科目名	数学A			単位数	2	履修区分	自由選択
対象の部	午前部	午後部		使用教科書 教材	改訂版　新　高校の数学A （数研出版）		
履修の条件	数学Ⅰの履修と並行して、あるいは数学Ⅰの履修が認定された後に履修すること						
先生からのアドバイス	標準的な内容を学習します。文章題（文章の形式になっている問題）が多いので、文章を読み取る力が必要です。中学校までに学習した「場合の数」「確率」「図形」「方程式」および数学Ⅰの知識があると内容が理解しやすいでしょう。大学や専門学校への進学を目指している生徒は、１年次または２年次に履修すると良いでしょう。なお、理系の四年制大学に進学を希望する生徒は、１年次で履修しておくことをお勧めします。						

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学ぶ態度
観点の内容	図形の性質、場合の数と確率の基本的な概念や原理・法則を体系的に理解し、数学と人間の活動の関係への認識を深め、事象を数学化し、数学的に解釈・表現・処理する技能を身に付けるようにする。 A評価：定期考査の正答率が80%以上。評価規準の全項目について、身に付けている。 B評価：定期考査の正答率30%以上80%未満。評価規準の一部項目について、身に付けている。 C評価：Bに到達していない。	図形の構成要素間の関係から性質を見いだし論理的に考察する力、不確実な事象の起こりやすさを確率の性質などに基づき判断する力、数学と人間の活動との関わりから事象に数学の構造を見いだし数理的に考察する力を養う。 A評価：定期考査の正答率が80%以上。評価規準の全項目について、身に付けている。 B評価：定期考査の正答率30%以上80%未満。評価規準の一部項目について、身に付けている。 C評価：Bに到達していない。	数学のよさを認識し活用する態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断する態度、問題解決の過程を振り返り考察を深め、評価・改善する態度や創造性の基礎を養う。 A評価：授業に積極的に参加し、提出物の取り組み状況も良好である。 B評価：授業に参加し、取り組んでいる様子がみられる。 C評価：Bに到達していない。
評価方法　学習状況の観察	△	△	△
評価方法　ノート・プリント	ー	ー	◎
評価方法　発表・グループ学習	○	◎	○
評価方法　単元テスト・定期考査	◎	○	ー

学期	月	学習内容（単元名）	評価規準		
前期	4	第1章　場合の数と確率 集合	・単元ごとの定義、定理、公式を理解することに努め、必要に応じて利用することができる。	・計算や証明問題の過程を省略せずに論述することに努める。また、発表やグループ学習では他者が理解しやすいように説明や補足ができる。	・与えられた課題や、自主的な学習に取り組むことができる。また、発表やグループ学習に積極的に参加することができる。
	5	順列 定期考査　①			
	6	組合せ			
	7	定期考査　② 確率			
	9	確率			
後期	10	第2章　図形の性質 図形の基本 定期考査　③	・単元ごとの定義、定理、公式を理解することに努め、必要に応じて利用することができる。	・計算や証明問題の過程を省略せずに論述することに努める。また、発表やグループ学習では他者が理解しやすいように説明や補足ができる。	・与えられた課題や、自主的な学習に取り組むことができる。また、発表やグループ学習に積極的に参加することができる。
	11	三角形 円			
	12	円			
	1	空間図形 定期考査　④			
	2	第3章　数学と人間の活動 約数と倍数 ユークリッドの互除法			
	3	2進法 点の位置の表し方 数学とゲーム・パズル			

科目名	数学B			単位数	2	履修区分	自由選択
対象の部	午前部	午後部		使用教科書 教材	改訂版　新　高校の数学B （数研出版）		
履修の条件	数学Ⅰの履修が認定された後に履修すること						
先生からのアドバイス	数学Ⅰよりも発展的な内容を学習します。数学Ⅰの知識を必要とします。理系の大学や専門学校への進学を目指す生徒は、履修すると良いでしょう。３年次で数学Ⅲを履修したい場合には、２年次で数学Ｂを履修することをお勧めします。						

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学ぶ態度
観点の内容	数列、統計的な推測の基本的な概念や原理・法則を体系的に理解し、数学と社会生活との関わりへの認識を深め、事象を数学化し、数学的に解釈・表現・処理する技能を身に付けるようにする。 A評価：定期考査の正答率が80%以上。評価規準の全項目について、身に付けている。 B評価：定期考査の正答率30%以上80%未満。評価規準の一部項目について、身に付けている。 C評価：Bに到達していない。	離散的な変化の規則性から事象を数学的に表現・考察する力、確率・標本分布の性質から母集団の傾向を推測・判断し、標本調査の方法や結果を批判的に考察する力、日常や社会の事象を数学化して問題を解決し、過程や結果を振り返り考察する力を養う。 A評価：定期考査の正答率が80%以上。評価規準の全項目について、身に付けている。 B評価：定期考査の正答率30%以上80%未満。評価規準の一部項目について、身に付けている。 C評価：Bに到達していない。	数学のよさを認識し活用する態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断する態度、問題解決の過程を振り返り考察を深め、評価・改善する態度や創造性の基礎を養う。 A評価：授業に積極的に参加し、提出物の取り組み状況も良好である。 B評価：授業に参加し、取り組んでいる様子がみられる。 C評価：Bに到達していない。
評価方法　学習状況の観察	△	△	△
評価方法　ノート・プリント	ー	ー	◎
評価方法　発表・グループ学習	○	◎	○
評価方法　単元テスト・定期考査	◎	○	ー

学期	月	学習内容（単元名）	評価規準		
前期	4	第１節　数列とその輪 等差数列	・単元ごとの定義、定理、公式を理解することに努め、必要に応じて利用することができる。	・計算や証明問題の過程を省略せずに論述することに努める。また、発表やグループ学習では他者が理解しやすいように説明や補足ができる。	・与えられた課題や、自主的な学習に取り組むことができる。また、発表やグループ学習に積極的に参加することができる。
	5	等比数列 和の記号Σ			
		定期考査　①			
	6	階差数列			
	7	定期考査　②			
		漸化式と一般項			
	9	数学的帰納法			
後期	10	確率 確率変数と確率分布	・単元ごとの定義、定理、公式を理解することに努め、必要に応じて利用することができる。	・計算や証明問題の過程を省略せずに論述することに努める。また、発表やグループ学習では他者が理解しやすいように説明や補足ができる。	・与えられた課題や、自主的な学習に取り組むことができる。また、発表やグループ学習に積極的に参加することができる。
		定期考査　③			
	11	二項分布 確率密度関数			
	12	正規分布			
	1	二項分布と正規分布			
		定期考査　④			
	2	母集団と標本			
	3				

科目名	数学C			単位数	2	履修区分	自由選択
対象の部	午前部			使用教科書 教材	NEXT　数学C　改訂版 （数研出版）		
履修の条件	数学Ⅰの履修が認定された後に履修すること						
先生からのアドバイス	数学Ⅰ、Ⅱの知識を必要とするので、あらかじめ数学Ⅰ、Ⅱを履修しておきましょう。将来、数学が必要な専門分野に進もうとする生徒や、数学に強い興味・関心をもって更に深く学習しようとする生徒向けの科目です。						

評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学ぶ態度
観点の内容		ベクトル、平面上の曲線と複素数平面の基本的な概念や原理・法則を体系的に理解し、数学的に表現・処理する技能を身に付けるようにする。 A評価：定期考査の正答率が80%以上。評価規準の全項目について、身に付けている。 B評価：定期考査の正答率30%以上80%未満。評価規準の一部項目について、身に付けている。 C評価：Bに到達していない。	大きさと向きをもった量から演算法則やその図形的な意味を考察する力、図形やその構造から数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。 A評価：定期考査の正答率が80%以上。評価規準の全項目について、身に付けている。 B評価：定期考査の正答率30%以上80%未満。評価規準の一部項目について、身に付けている。 C評価：Bに到達していない。	数学のよさを認識し活用する態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断する態度、問題解決の過程を振り返り考察を深め、評価・改善する態度や創造性の基礎を養う。 A評価：授業に積極的に参加し、提出物の取り組み状況も良好である。 B評価：授業に参加し、取り組んでいる様子がみられる。 C評価：Bに到達していない。
評価方法	学習状況の観察	△	△	△
	ノート・プリント	ー	ー	◎
	発表・グループ学習	○	◎	○
	単元テスト・定期考査	◎	○	ー

学期	月	学習内容（単元名）	評価規準		
前期	4	第1章　ベクトル	・単元ごとの定義、定理、公式を理解することに努め、必要に応じて利用することができる。	・計算や証明問題の過程を省略せずに論述することに努める。また、発表やグループ学習では他者が理解しやすいように説明や補足ができる。	・与えられた課題や、自主的な学習に取り組むことができる。また、発表やグループ学習に積極的に参加することができる。
	5	定期考査　①			
	6	第1章　ベクトル			
	7	定期考査　②			
		第2章　複素数平面			
	9				
後期	10	第2章　複素数平面	・単元ごとの定義、定理、公式を理解することに努め、必要に応じて利用することができる。	・計算や証明問題の過程を省略せずに論述することに努める。また、発表やグループ学習では他者が理解しやすいように説明や補足ができる。	・与えられた課題や、自主的な学習に取り組むことができる。また、発表やグループ学習に積極的に参加することができる。
		定期考査　③			
	11	第2章　複素数平面			
	12	第3章　式と曲線			
	1				
		定期考査　④			
	2	第3章　式と曲線			
	3				

科目名	数学基礎			単位数	2	履修区分	自由選択
対象の部	午前部	午後部		使用教科書 教材	新　高校の数学 Step By Step! (数研出版)		
履修の条件							
先生からのアドバイス	数と式について、数学Ⅰまでに学習した様々な内容を学び直す科目です。計算が苦手であったり高校までの数学の内容を復習したい生徒は、履修すると良いでしょう。						

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学ぶ態度
観点の内容	基本的な四則演算、文字と式、展開、因数分解、根号及び方程式の基本的な概念や原理・法則を体系的に理解し、事象を数学化し、数学的に解釈・表現・処理する技能を身に付けるようにする。 A評価：定期考査の正答率が80%以上。評価規準の全項目について、身に付けている。 B評価：定期考査の正答率30%以上80%未満。評価規準の一部項目について、身に付けている。 C評価：Bに到達していない。	数や式を適切に変形する力、式とグラフを関連付けて考察する力、適切な手法を選択・分析し、問題を解決する力を身に付ける。 A評価：定期考査の正答率が80%以上。評価規準の全項目について、身に付けている。 B評価：定期考査の正答率30%以上80%未満。評価規準の一部項目について、身に付けている。 C評価：Bに到達していない。	数学のよさを認識し活用する態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断する態度、問題解決の過程を振り返り考察を深め、評価・改善する態度や創造性の基礎を養う。 A評価：授業に積極的に参加し、提出物の取り組み状況も良好である。 B評価：授業に参加し、取り組んでいる様子がみられる。 C評価：Bに到達していない。
評価方法　学習状況の観察	△	△	△
評価方法　ノート・プリント	ー	ー	◎
評価方法　発表・グループ学習	○	◎	○
評価方法　単元テスト・定期考査	◎	○	ー

学期	月	学習内容（単元名）	評価規準		
前期	4	正負の数のたし算、ひき算 正負の数のかけ算、わり算 正負の累乗の計算	・単元ごとの定義、定理、公式を理解することに努め、必要に応じて利用することができる。	・計算や証明問題の過程を省略せずに論述することに努める。また、発表やグループ学習では他者が理解しやすいように説明や補足ができる。	・与えられた課題や、自主的な学習に取り組むことができる。また、発表やグループ学習に積極的に参加することができる。
	5	公倍数、公約数 分数の性質と約分、通分			
		定期考査　①			
	6	分数のたし算、ひき算 分数のかけ算、わり算			
	7	定期考査　②			
		計算の順序			
	9	文字式 単項式、多項式の次数 多項式の整理			
後期	10	多項式の加法、減法 多項式の乗法、除法	・単元ごとの定義、定理、公式を理解することに努め、必要に応じて利用することができる。	・計算や証明問題の過程を省略せずに論述することに努める。また、発表やグループ学習では他者が理解しやすいように説明や補足ができる。	・与えられた課題や、自主的な学習に取り組むことができる。また、発表やグループ学習に積極的に参加することができる。
		定期考査　③			
	11	単項式の乗法、除法 式の展開			
	12	因数分解 式の値			
	1	平方根 根号を含む式の計算			
		定期考査　④			
	2	１次方程式 連立方程式 ２次方程式			
	3				

科目名	数学基礎			単位数	3	履修区分	自由選択
対象の部			夜間部	使用教科書 教材		新　高校の数学 Step By Step! (数研出版)	
履修の条件							
先生からのアドバイス	数と式について、数学Ⅰまでに学習した様々な内容を学び直す科目です。計算が苦手であったり高校までの数学の内容を復習したい生徒は、履修すると良いでしょう。						

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学ぶ態度
観点の内容	基本的な四則演算、文字と式、展開、因数分解、根号及び方程式の基本的な概念や原理・法則を体系的に理解し、事象を数学化し、数学的に解釈・表現・処理する技能を身に付けるようにする。 A評価：定期考査の正答率が80%以上。評価規準の全項目について、身に付けている。 B評価：定期考査の正答率30%以上80%未満。評価規準の一部項目について、身に付けている。 C評価：Bに到達していない。	数や式を適切に変形する力、式とグラフを関連付けて考察する力、適切な手法を選択・分析し、問題を解決する力を身に付ける。 A評価：定期考査の正答率が80%以上。評価規準の全項目について、身に付けている。 B評価：定期考査の正答率30%以上80%未満。評価規準の一部項目について、身に付けている。 C評価：Bに到達していない。	数学のよさを認識し活用する態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断する態度、問題解決の過程を振り返り考察を深め、評価・改善する態度や創造性の基礎を養う。 A評価：授業に積極的に参加し、提出物の取り組み状況も良好である。 B評価：授業に参加し、取り組んでいる様子がみられる。 C評価：Bに到達していない。
評価方法　学習状況の観察	△	△	△
評価方法　ノート・プリント	ー	ー	◎
評価方法　発表・グループ学習	○	◎	○
評価方法　単元テスト・定期考査	◎	○	ー

学期	月	学習内容（単元名）	評価規準		
前期	4	正負の数のたし算、ひき算 正負の数のかけ算、わり算 正負の累乗の計算	・単元ごとの定義、定理、公式を理解することに努め、必要に応じて利用することができる。	・計算や証明問題の過程を省略せずに論述することに努める。また、発表やグループ学習では他者が理解しやすいように説明や補足ができる。	・与えられた課題や、自主的な学習に取り組むことができる。また、発表やグループ学習に積極的に参加することができる。
	5	公倍数、公約数 分数の性質と約分、通分			
		定期考査　①			
	6	分数のたし算、ひき算 分数のかけ算、わり算			
	7	定期考査　②			
		計算の順序			
	9	文字式 単項式、多項式の次数 多項式の整理			
後期	10	多項式の加法、減法 多項式の乗法、除法	・単元ごとの定義、定理、公式を理解することに努め、必要に応じて利用することができる。	・計算や証明問題の過程を省略せずに論述することに努める。また、発表やグループ学習では他者が理解しやすいように説明や補足ができる。	・与えられた課題や、自主的な学習に取り組むことができる。また、発表やグループ学習に積極的に参加することができる。
		定期考査　③			
	11	単項式の乗法、除法 式の展開			
	12	因数分解 式の値			
	1	平方根 根号を含む式の計算			
		定期考査　④			
	2	1次方程式 連立方程式 2次方程式			
	3				

科目名	数学活用			単位数	2	履修区分	自由選択
対象の部	午前部	午後部		使用教科書 教材	新編実用数学セミナー (浜島書店)		
履修の条件							
先生からのアドバイス	数学Ⅰまでに学習した基本的な内容を学習しますので、卒業前に総復習しましょう。割合や単位の計算も行うので入社試験等にも対応しています。就職を希望する生徒は卒業見込み年次に履修することが望ましいです。						

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学ぶ態度
観点の内容	基本的な四則演算、文字と式、単位と割合及び資料の活用の基本的な概念や原理・法則を体系的に理解し、事象を数学化し、数学的に解釈・表現・処理する技能を身に付けるようにする。 A評価：定期考査の正答率が80%以上。評価規準の全項目について、身に付けている。 B評価：定期考査の正答率30%以上80%未満。評価規準の一部項目について、身に付けている。 C評価：Bに到達していない。	数や式を適切に変形する力、式とグラフを関連付けて考察する力、適切な手法を選択・分析し、問題を解決する力を身に付ける。 A評価：定期考査の正答率が80%以上。評価規準の全項目について、身に付けている。 B評価：定期考査の正答率30%以上80%未満。評価規準の一部項目について、身に付けている。 C評価：Bに到達していない。	数学のよさを認識し活用する態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断する態度、問題解決の過程を振り返り考察を深め、評価・改善する態度や創造性の基礎を養う。 A評価：授業に積極的に参加し、提出物の取り組み状況も良好である。 B評価：授業に参加し、取り組んでいる様子がみられる。 C評価：Bに到達していない。
評価方法 学習状況の観察	△	△	△
評価方法 ノート・プリント	ー	ー	◎
評価方法 発表・グループ学習	○	◎	○
評価方法 単元テスト・定期考査	◎	○	ー

学期	月	学習内容（単元名）	評価規準		
前期	4	いくつかの数の計算(1) 計算の工夫	・単元ごとの定義、定理、公式を理解することに努め、必要に応じて利用することができる。	・計算や証明問題の過程を省略せずに論述することに努める。また、発表やグループ学習では他者が理解しやすいように説明や補足ができる。	・与えられた課題や、自主的な学習に取り組むことができる。また、発表やグループ学習に積極的に参加することができる。
	5	倍数、約数 分数 定期考査　①			
	6	正負の数 いくつかの数の計算(2)			
	7	定期考査　②			
		文字と式			
	9	単位			
後期	10	割合 平方根	・単元ごとの定義、定理、公式を理解することに努め、必要に応じて利用することができる。	・計算や証明問題の過程を省略せずに論述することに努める。また、発表やグループ学習では他者が理解しやすいように説明や補足ができる。	・与えられた課題や、自主的な学習に取り組むことができる。また、発表やグループ学習に積極的に参加することができる。
		定期考査　③			
	11	割合 平方根			
	12				
	1				
		定期考査　④			
	2	資料の活用			
	3				

科目名	数学活用			単位数	3	履修区分	自由選択
対象の部			夜間部	使用教科書 教材	新編実用数学セミナー (浜島書店)		
履修の条件							
先生からのアドバイス	数学Ⅰまでに学習した基本的な内容を学習しますので、卒業前に総復習しましょう。割合や単位の計算も行うので入社試験等にも対応しています。就職を希望する生徒は卒業見込み年次に履修することが望ましいです。						

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学ぶ態度
観点の内容	基本的な四則演算、文字と式、単位と割合及び資料の活用の基本的な概念や原理・法則を体系的に理解し、事象を数学化し、数学的に解釈・表現・処理する技能を身に付けるようにする。 A評価：定期考査の正答率が80%以上。評価規準の全項目について、身に付けている。 B評価：定期考査の正答率30%以上80%未満。評価規準の一部項目について、身に付けている。 C評価：Bに到達していない。	数や式を適切に変形する力、式とグラフを関連付けて考察する力、適切な手法を選択・分析し、問題を解決する力を身に付ける。 A評価：定期考査の正答率が80%以上。評価規準の全項目について、身に付けている。 B評価：定期考査の正答率30%以上80%未満。評価規準の一部項目について、身に付けている。 C評価：Bに到達していない。	数学のよさを認識し活用する態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断する態度、問題解決の過程を振り返り考察を深め、評価・改善する態度や創造性の基礎を養う。 A評価：授業に積極的に参加し、提出物の取り組み状況も良好である。 B評価：授業に参加し、取り組んでいる様子がみられる。 C評価：Bに到達していない。
評価方法 学習状況の観察	△	△	△
評価方法 ノート・プリント	ー	ー	◎
評価方法 発表・グループ学習	○	◎	○
評価方法 単元テスト・定期考査	◎	○	ー

学期	月	学習内容（単元名）	評価規準		
前期	4	いくつかの数の計算(1) 計算の工夫	・単元ごとの定義、定理、公式を理解することに努め、必要に応じて利用することができる。	・計算や証明問題の過程を省略せずに論述することに努める。また、発表やグループ学習では他者が理解しやすいように説明や補足ができる。	・与えられた課題や、自主的な学習に取り組むことができる。また、発表やグループ学習に積極的に参加することができる。
	5	倍数、約数 分数 定期考査　①			
	6	正負の数 いくつかの数の計算(2)			
	7	定期考査　②			
		文字と式			
	9	単位			
後期	10	割合 平方根	・単元ごとの定義、定理、公式を理解することに努め、必要に応じて利用することができる。	・計算や証明問題の過程を省略せずに論述することに努める。また、発表やグループ学習では他者が理解しやすいように説明や補足ができる。	・与えられた課題や、自主的な学習に取り組むことができる。また、発表やグループ学習に積極的に参加することができる。
		定期考査　③			
	11	割合 平方根			
	12				
	1				
		定期考査　④			
	2	資料の活用			
	3				